



## 東京国際空港再拡張事業における 環境監視委員会の開催

### 記者発表資料

国土交通省は、我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により急ピッチで工事を進めています。

工事実施にあたっては、東京湾の水環境や大気環境に与える影響を極力回避する施工方法を採用しており、今般、平成21年9月7日（月）に第4回環境監視委員会を開催し、平成20年冬季～平成21年春季までの環境監視結果について委員会に諮り、環境監視上問題ないことが確認されました。

[http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/haneda\\_saikaku/kankyuu/03\\_com.html](http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/haneda/haneda_saikaku/kankyuu/03_com.html)

#### （参考）

再拡張事業の工事実施にあたっては、新設滑走路及び飛行場施設の工事中における環境監視計画〈工事中〉に基づき、学識経験者や関係自治体から構成される「環境監視委員会」（委員長 清水 誠 東京大学名誉教授）を設置するとともに、定期的に委員会を開催し、環境監視結果の確認を受けながら工事を進めています。

今後も継続して、環境監視を徹底し、その結果を定期的に環境監視委員会に諮るとともに、学識経験者等の意見を踏まえながら工事を進めて参ります。

平成21年9月30日（水）

国土交通省関東地方整備局 東京空港整備事務所

#### 同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会  
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所  
D滑走路プロジェクト推進室 松本・高野・中島  
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7 メンテナンスセンターアネックス 5階  
電話 03-5756-6575  
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

## 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会構成

(順不同・敬称略)

### (学識経験者)

委員長	清水 誠	東京大学名誉教授
委員	小倉 紀雄	東京農工大学名誉教授
委員	古川 恵太	国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長
委員	猿田 勝美	神奈川大学名誉教授
委員	時田 保夫	財団法人小林理学研究所 顧問

### (行政関係者)

関係者	東京都 環境局 都市地球環境部 環境都市づくり課アセスメント担当課長
関係者	神奈川県 環境農政部 環境影響審査担当課長
関係者	千葉県 環境生活部 環境政策課長

### (事務局)

関東地方整備局
東京航空局

## 第4回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 議事概要

---

【開催日時】	平成21年 9月7日（月）15：00～16：30
【議 題】	・東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について ・存在・供用時の環境監視計画について ・その他
【出席者】	清水委員長、小倉委員、猿田委員、時田委員、古川委員、千葉県、東京都、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、東京空港事務所
【開催場所】	羽田空港第一ターミナルビル 6F シリウスA・B
【資 料】	資料-1 環境監視結果の概要について 資料-2 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果報告 資料-3 存在・供用時の環境監視計画について

---

### 1. 開会挨拶

### 2. 委員長挨拶

### 3. 議 事

#### 3-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果について

[資料説明]：事務局より、工事の進捗状況について説明。その後、大気環境・水環境の監視結果について報告を行った。

[大気環境に関して]：

委 員：大気環境について工事の影響は見られなかった。

[水環境に関して]：

委 員：埋め立てが進行してきたことで、流れの変化が示されているが、この変化は滑走路に沿う流れが強くなったということで、事前の環境アセスメントで計算された内容とも整合していると考えている。

委 員：水環境に関して、特に問題はなかった、今までと変わりなかったと考える。

## 第4回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 議事概要

委員：環境監視に関して管理目標、あるいは基準値等の数値が決まっているものに関しては、超えているものはなかったし、生き物などについても従来と変わりなかった。

### 3-2 存在・供用時の環境監視計画について

[資料説明]：事務局より、「東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画（存在・供用時）の水環境に係る監視計画の基本的な考え方」について説明を行った。

委員：D滑走路を供用した後の環境モニタリングということは大変重要だと思うが、モニタリングの期間はどのくらいを予定しているか。

事務局：基本は5年くらいを考えているが、東京湾の水環境にとって、非常に重要であり、ある程度長い期間のモニタリングが必要と考えている。また、貴重なデータをコンスタントに出していけるような体制づくりが必要と考えている。

委員：調査地点を絞ってでも、できるだけ有効な調査を長期継続できるような体制、仕組みをつくった方が効率的で良いと考えている。

委員：観測櫓の定点観測データについては、羽田空港のみならず、閉鎖性海域としての東京湾の水環境を考える上でも非常に貴重なものになると思う。将来的にも観測データの有効な活用方法も出てくると思うので、是非、継続観測する体制を検討して頂きたい。

事務局：大気環境に係る監視計画については航空局で現在検討中です。水環境に係る監視計画と合わせて、第5回 環境監視委員会でご審議いただきたい。

(了)